

### 第3回 四国港湾ビジョン検討委員会 委員等からの主な意見まとめ

#### <最終とりまとめ(案)に対する主な意見>

- 大きくて重量のある物を運ぶ手段として選ばれてきた海上輸送において、その価値を上げようとする場合、従来ならば小さくて、軽くて、かさばらないものを運べるようになることと考えていたが、今後製造業を中心とする四国の港湾において、価値の創造をどのように進めていくかを具体的に考えていくことが重要。
  - インバウンドやクルーズ船の需要を回復するためには、訪れる側にも感染症予防対策の責任がある「レスポンシブル観光」を、訪れる側と迎える側が連携して取り組んでいくことが必要。
  - 今回の新型コロナの影響で、柔軟に対応できる計画の必要性を改めて認識させられた。計画に柔軟性を保たせつつ、これからこの3本の柱を基に、色々と推し進めていく時には、特に住民の方々や民間事業者の方々との連携や協力が重要。
  - 移動は港の中で完結するのではなく、港から次の場所、それから最終の目的地とつながるため、特に MaaS と連携し、他の交通手段ともシームレスなシステムを構築することが重要。
  - ストックマネジメントは、単に既存施設を維持するものではなく、将来も見据え、場合によってはダウンサイジングといった検討も必要であるが、使わなくなった部分から、新しい価値が創造される可能性もある。他の港湾や、背後都市との関係とストックマネジメントにより、新しい価値を創造してもらえらるビジョンとして利用されることを期待。
  - 港湾は、空港、鉄道、道路に比べると一般の方へのなじみが薄いので、上手に一般の方々、関係者の方々を取り込み、官民一体となってビジョンの実現に向けて進めていくことを期待。
  - 物流とクルーズ等の賑わい・観光との共存を図っていくためには、背後の道路整備等、港湾のハード整備は引き続き必要。
  - フェリーの物流効率化を図るためには、シャーシの定型化、自動積み込み・積卸しや自動航行、自動離着岸等が必要だが、いろいろとクリアすべき問題があり、事業者等の意見をききつつ、取り組むべき。
  - 本ビジョンは、今後各港湾において、長期的な展望を検討をする際に、参考書(エッセンス)として活用いただくことを期待。
- とりまとめ案については、特に修文の必要があるとの指摘もなかったことから、本案をこの検討会の結論とすることです承された。
- なお、ビジョンのタイトルは、目標を明確化でき、プラス思考で具体的なメッセージを含むという複数意見より、『四国港湾ビジョン 2040 ～「効・創・適」新しい港の様式～』に決定した。

(以上)